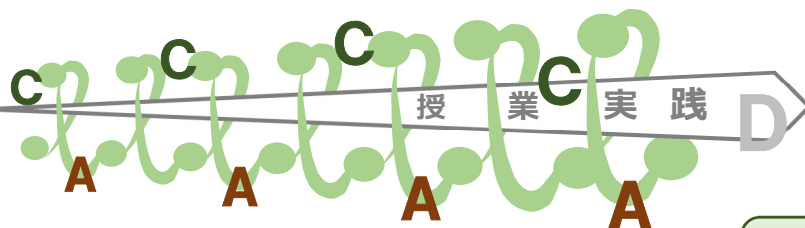


P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



「〇〇の所から～な感じがする」
「ここからはずむ感じがするのは、
途中からリズムが細くなるから」

Check 1

- ・聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を関わらせながら考えているか

「なぜこう感じるのかな」
「こんなふうに歌ってみたい」
「もっとよい表現にしたい」

Check 2

- ・願いや憧れのある出会いから、必然性のある課題になっているか

「〇〇の学習を活かせば、
できそうだな」

Check 3

- ・学習の見通しがもっているか
- ・学びのつながりを意識しているか

「旋律が上下に動くところで波の強さを
表現したいから、息をたっぷり吸って
クレッシェンドをつけて歌ってみよう」

Check 4

- ・考え、思いや意図をもっているか
- ・試行錯誤し、思考、判断しながら音楽活動に粘り強く取り組んでいるか

「もっと〇〇したらどうか？」
「～なっているか、演奏して確かめよう」

Check 5

- ・仲間との交流で表現を確かめながら、よりよい表現に近づくために、どうするとよいかを考えているか

「できた」
「最初は～だったけど、強弱を
工夫すると、より伝わる演奏
になることが分かった」

Check 6

- ・何ができたか、どう変わったかを実感できているか

A 授業改善のポイント

※ここに示した視点は、「A 表現」領域の視点（例）です。
6つの視点に順序性はありません。

☞ 1 聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を関わらせながら考えるためには

- ・題材を貫く音楽を形づくっている要素とその働きについて、イメージや感情と関連付けて考えるために、「なぜそう感じたの。」「どの部分からそう感じるの。」などと問い返し、音楽を捉える視点や考え方を明確にしながら要素を焦点化することが大切です。
- ・2つを関わらせて考え、交流したことを板書に構造的に示して全体で共有するように工夫しましょう。

★これは、音楽的な見方・考え方を働かせる深い学びにつながります。題材や1単位時間を通して、この視点（要素）に着目した学びが進むように、教師の見届けや言葉がけが必要です。

☞ 2 願いや憧れのある出会いから、必然性のある課題にするためには

- ・「新しい音や音楽との出会い」「前時との違い」「意図的な比較範奏」「表現と思いや願いとのずれ」など、ねらいや出口（終末）の姿を明確にする導入を工夫することが大切です。

☞ 3 学習の見通しをもつ・学びのつながりを意識するためには

- ・既習学習との関わりや要素の働きに着目し、どの要素に着目するかを「視点」として示し、どのように音楽で表現するか「方法」や「条件」を明確にすることで、生徒が出口の姿を具体的にイメージできるようになります。

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



☞ 4 自分の考え、思いや意図をもち、試行錯誤し、思考、判断しながら音楽活動に粘り強く取り組むためには

- ・表したい表現に向かって感じ取ったことや想像したことを、言葉で伝え合うことと実際に演奏して試すことを繰り返す中で、思いや意図が膨らむように、変容を見届け価値付けることが大切です。
- ・言語活動と音楽活動の往還の中で視点を手掛かりに考えていけるように、教師の問い返しや意図的な指導で表現を見直したり、比較したり、よさを実感したりしながら考えを更新していくことが、主体的に試行錯誤する姿につながります。

☞ 5 仲間と交流しながら表現を確かめ、よりよい表現に近づくためにどうするとよいかを考えるためには

- ・仲間と交流や工夫をする時は、視点や、どのように交流するとよいかを具体的に示すことが大切です。
- ・めざす表現に向かっていけるように、互いに聴き合う場や教師がよさを価値付け共有する場などを位置付けることが大切です。

☞ 6 何ができたか、どう変わったかを実感するためには

- ・何が変わったか、できたかを、本時の課題や視点をもとに振り返るように示したり、ワークシートを用いたりするなど工夫することで、自分の学びが実感できます。
- ・言葉で振り返るだけでなく、実際に音や音楽で確かめたり、導入の演奏と聴き比べたりする場を位置付けることが大切です。

「B 鑑賞」領域でも、☞Check 1をもとに要素に着目して聴き、よさを味わったり曲想と音楽の構造との関わりに気付いたりすることができる学びにしましょう！！